

『##対峙 (Mass)』(2021 年) を amazon prime video で視聴した。フラン・クラ
ンツ映画監督デビュー作。サン・セバスティアン国際映画祭若手審査員賞受賞。

とある教会の一部屋で二組の夫婦が対面する。一組は 6 年前に高校で発生した銃乱射事件で息子を殺された被害者家族 P だった。もう一組は 10 人を射殺してから自殺した男子生徒 H の親だった。そして会話は始まってゆく。実際に、米国ではこのような取り組みがされているのだろうか。

P 夫妻は息子を失った悲しみから立ち直れない。セラピストの勧めで加害者の両親との話し合いに臨んだのがことの始まりらしい。緊張しながらも冷静に家族の思い出や近況について話し始める P 夫妻。癒しを求める夫妻は、なぜ事件が起きたかを H の両親に問いかける。

H の幼い頃のことから話し始める両親。鬱でセラピーを受けたこともある H は、高校時代にパイプ爆弾を手作りして逮捕された。しかし両親は H の成績の良さを評価し、将来を潰さないために大事にしようとしなかったのだ。

親ならば、息子の異変に気づけたはずだと、一時は激昂して叫ぶ P 夫妻。しかし、事件後に激しい非難にさらされ、経済的にも困窮している H の父親であったが、殺された学生たち全員の名と死にざまを記憶していた。それを聞いた後、P 夫人が涙ながらに話始める。高校時代のフットボールの試合後、泥んこで帰って来た息子の様子とそれに対する家族の様子を泣き笑いで語り出す。そして最後に言うのだ。許しを与えない限り、復讐心ばかりでは心の平穏が訪れないと。H の両親を許す P 夫妻。

会話は終わり、先に教会を出る H の両親を見送り、職員と会話する P 夫妻。そこへ一人で戻り、告白する H の母親。彼女は H と口論し、殴られかけた恐怖で逃げた経験があったのだ。「殴らせておけば、あの子の真の姿が分かった…」と、涙ながらに打ち明けてその場を離れる。

殺されたら、仕返しに殺し返す。現在、世界中でこの連鎖が繰り返されている。仕返ししたら心に平穏が訪れるのか。どこかで「許し」て、仕返しの連鎖を止めるしかないのではないかとこの映画は訴えかけている。